外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣申請書

【研修実施のためのチェックリスト】

研修講師としてアドバイザーの派遣を希望する場合は、以下のチェックリストを作成し、申請書と共に提出してください。

アドバイザーが講師を務める研修において、取り扱いたいと考える内容のチェック欄に「◎」「○」を付けてください（複数選択可）。特に優先順位が高いものには「◎」をつけてください（複数選択可）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 内容 | ○大項目　　・小項目　　※項目の一部は複数の内容で取り扱う | チェック欄 |
| Ａ　外国人児童生徒等教育の課題 | ○グローバル化と外国人児童生徒等  ・多文化化する学校　　・複言語主義　・多文化主義　　・言語的マイノリティ  ○文化間移動とライフコース  ・成長・発達の視点　　・社会参加と自己実現　　・アイデンティティ  ○多文化共生教育  ・異文化間能力　　・ダイバーシティ　　・市民性  ○公教育の役割  ・社会的正義、公正性　　　・学習権・言語権　　　・教育コミュニティ  ○日本語教育の位置付け |  |
| Ｂ　外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策 | ○外国人児童生徒等の現状と背景  ・「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」  ・在留外国人統計　　・在留資格　　・児童生徒の出身地の教育制度  ・来日の社会的歴史的背景(国際結婚、難民、中国帰国者、日系移民、在日コリアン）  〇外国人児童生徒等教育施策  ・「特別の教育課程」としての日本語指導  ・文部科学省開発のカリキュラム、教材、評価ツール  ・就学義務と学習権（不就学、義務教育年齢超過）  ・学校制度と入試（高校入試、定時制高校、夜間中学、進学・退学率）  ○地域の特性  ・当該自治体の多文化化状況（集住／散在）　・エスニック・コミュニティ  ・外国人支援の状況 |  |
| Ｃ　学校の受け入れ体制 | ○自治体の受け入れの流れ  ○自治体（教育委員会）の指導体制  ・日本語学級の設置  ・拠点校（センター校）　　・巡回指導　　・通級  ・初期集中日本語指導教室（プレクラス）  ・就学前準備教育教室（プレスクール）  ・日本語指導員・母語相談員の派遣  ○校内の指導体制  ・校務分掌（外国人児童生徒等教育担当、日本語指導担当）  ・スクール・カウンセラー、ソーシャルワーカーとの連携  ・教員の加配　　　　・派遣日本語指導員、母語相談員  ・ボランティアの日本語支援者、学習支援者、母語支援者  ・取り出し指導（抽出指導）／入り込み指導  ・「特別の教育課程」と個別の指導計画　　・評価と成績  ○教員・支援員間の連携  ・校内教職員・支援員の連携　　　・他校との連携　　・保幼小中高間連携 |  |
| Ｄ　文化適応 | ○外国人児童生徒等の文化  ・宗教　　・習慣　　・学校文化（「隠れたカリキュラム」）　・非言語行動  〇文化接触  ・自文化中心主義／文化相対主義　　・文化本質主義／文化構築主義  ・ステレオタイプ、偏見、差別　　・対話　　・異文化の受容　・自己肯定感  ○子どもの文化適応  ・異文化適応のプロセス　　・心的文化変容（同化、分離、統合、境界化）  ・情意面、行動面、認知面の違い |  |
| Ｅ　母語・母文化・アイデンティティ | ○母語と第二言語  ・バイリンガリズム　　・二つの言語の関係（二言語相互依存仮説）  ・言語環境　　　　　　・言語の使い分け  〇アイデンティティ  ・アイデンティティの動態性・多面性　　・母語・母文化とアイデンティティ  ○母語／継承語教育  ・家族とのコミュニケーション　　・認知面の支えとしての母語  ・母語保持・伸長の支援 |  |
| Ｆ　言語と認知の発達 | ○子どもの言語発達  ・一次的ことばと二次的ことば　　　　・萌芽的リテラシー　　　・ことばと思考  ・第二言語習得のプロセス(沈黙期、チャンク等)　・言語発達と発達障害、学習障害  〇言語能力の捉え方  ・コミュニケーション能力　　　・言語の四技能　　・生活言語能力と学習言語能力  ○言語能力の測定法  ・言語テストの目的、実施方法、結果の活用  ・言語能力測定ツール（文部科学省「JSL児童生徒のための対話型アセスメント（DLA）」） |  |
| Ｇ　日本語の特徴 | ○外国語としての日本語  ・音韻、文字・表記、語彙、文法　　・学校文法との違い　　・諸言語との対照  ○文章・談話  ・ジャンルと文体　　・ことばの機能　　・表現の意図　　・結束性  ○場面とことば  ・言語使用域　　　・敬語　　　　・話しことばと書きことば  ・共通語と方言　　・ことばの性差 |  |
| Ｈ　子どもの日本語教育の理論と方法 | ○日本語指導の内容（シラバス）  ・構造（文型）、場面、トピック、機能　等  ○言語教育の考え方と方法  ・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ  ・内容（教科等）と言語（日本語）の統合学習（文部科学省「JSLカリキュラム」）  ・認知プロセスにもとづく読み・書きの指導  ○学習活動  ・文型練習（パターン・プラクティス等）  ・意味を重視した活動（タスク、ロールプレイ、プロジェクトワーク等）  〇教材・教具（リソース）の利用と作成  ・教材の分析　　　・教材の作成（補助教材・ワークシート・リライト教材等）  ・メディアの活用　　　・知的財産権・著作権  〇教科の指導  ・「主体的・対話的で深い学び」　　　　・教科教育法  ・授業のことば　　　・教科のことば　　・学習参加のための支援 |  |
| Ｉ　日本語指導の計画と実施 | ○日本語のコース設計の手順  ・実態把握（学習歴、出身国の教育内容、日本語の力、教科の力、学習環境）  ・目標設定と指導内容の決定　　・指導方法と評価方法の決定  〇日本語プログラム  ・サバイバル、日本語基礎、技能別日本語、内容と日本語の統合学習「JSLカリキュラム」）、教科の補習  ・キャリア教育、人権教育、国際理解教育等とのクロスカリキュラム  ○指導計画の作成  ・年間指導計画の作成　　・対象児童生徒と指導期間の決定　　　・目標と評価  ・日本語プログラムの組み合わせ　　・「特別の教育課程」としての日本語指導  ○模擬授業  ・日本語指導の学習指導案の作成　　・模擬授業の実施　　・振り返り |  |
| Ｊ　在籍学級での学習支援 | ○学習参加のための支援  ・スキャフォールディング（足場かけ　例：「JSLカリキュラム中学校編」日本語支援の5つの視点）　　・フォーカス・オン・フォーム  ○学習環境づくり  ・校内、教室内の掲示　　・教材の言語面への配慮（教材、教具、試験問題）  ・周囲の児童生徒との相互学習　　・周囲の児童生徒による支援  ○日本語学習と他教科の内容・活動との関連付け（カリキュラム・マネジメント） |  |
| Ｋ　社会参加とキャリア教育 | ○キャリア教育  ・自己実現　・ロールモデル　・進路指導（進学・就職／多言語進路ガイダンス）  ・外国人生徒等対象の特別入試、特別措置　　・就労と在留資格  ○社会参加とことばの力  ・情報リテラシー　　・社会参画　　　・市民性教育 |  |
| Ｌ　保護者・地域とのネットワーク | ○保護者の教育参加の促進  ・日本語力への配慮（通訳・翻訳、やさしい日本語）  ・教育制度・学校文化理解の促進（学校行事、就学・進路関係資料、学校のお知らせ）  ・就学ガイダンス、外国人保護者懇談会等の実施  ・保護者の社会的状況への配慮（外国人の雇用状況とその背景等）  ○多文化家族  ・言語・文化の違いによる断絶　　・サード・カルチャー・キッズ  ○地域、専門家との連携・協力  ・地域の外国人支援の状況　　・エスニック・コミュニティ　　・居場所づくり  ・国際交流協会、NPO団体等との連携　　・福祉・医療等関連機関との連携  ・大学等教育研究機関との連携 |  |
| Ｍ　現場における実践（実地教育・研修） | ○現場での実践（観察、交流、支援、授業の実施）  ・対象児童生徒の多様性（言語文化・年齢・家族背景・滞日歴・学習歴他）の理解  ・指導体制・指導条件の多様性の理解　　・条件に応じた指導計画の作成  ・状況に応じた支援の工夫　　・関係者との連携・協働  ○実施記録の作成と振り返り  ・現場の状況　　　・実施内容　　　・授業・活動時の児童生徒の参加状況  ・担当教員・関係者から得た情報  ○実施した授業の振り返り  ・作成した指導計画について　　・当初の子ども観・教材観・指導観等  ・児童生徒の学び　　　・授業時の支援・対応について  ○現場での実践における倫理 |  |
| Ｎ　成長する教師（教員・支援員） | ○省察的実践家  ・自己の変容　　・自己研修　　・実践の共有  ○外国人児童生徒等教育の専門性の向上  ・日本語教育に関わる専門性　　・外国人児童生徒等教育に関わる専門性  ・他の領域の専門家との協働  ○教師（教員・支援員）としての成長  ・教師のキャリアにおける外国人児童生徒等教育経験の意味  ・リーダーとしての役割　　・新しい価値の創造　　・社会への働きかけ |  |

文部科学省委託「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（公益社団法人日本語教育学会）